永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2019年 4月

「彼を知るために」「天からの来訪者（1）」「品性」「フライパンで作るカボチャグラタン」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強
天からの来訪者（I） 4
聖書の教え

朝のマナ
彼を知るために 8
That I May Know Him

現代の真理
「品性」 39
神の憐れみの最後の招き

力を得るための食事
フライパンで作るカボチャグラタン 44

お話コーナー
「裏切りと逮捕（II）」 46
イエスの物語

【正丸教会】
〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465　FAX：0494-40-1045

【高知集会所】
〒780-8015　高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】
〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス　www.4angels.jp
メール　support@4angels.jp

発行日　2019 年 3 月 3 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page, Sermon View on page 39

Printed in Japan

今日の世界の解決方法

神は、イスラエルの民に嗣業を分配なさるにあたって、彼らに、また彼らを通して後世の人々に、土地の所有権について正しい原則を教えようと意図された。カナンの土地は、聖所に奉仕するレビ人だけを除いて、他の全部の民に分配された。一時その所有地を処分するようなことがあっても、子どもの相続権だけは譲り渡すことはできなかった。都合のつくときにはいつでも所有地を買いもどす自由が与えられていた。負債は七年めごとに免除され、五十年めのヨベルの年になると土地の所有権は全部もとの持ち主の手にもどった。こうして、どの家族も、その所有権を確保され、貧富の両極端が防止された。

神は、イスラエルの民に土地を分配することによって、エデンの住者と同じように、心身の発達に最も適した仕事をお与えになった。それは作物と家畜の世話であった。さらに教育上の配慮から、七年めごとに耕作をやめて、土地を休作状態にしておき、自然に生ずる産物は貧しい人々の手に任された。このように生活上の苦労や働きのためにとかく忘れられがちないっそう広い研究や、社交や、礼拝や、慈善心を表わすことなどのために、機会が与えられた。

財産の分配に関する神の律法の原則が、今日の世界にも実行されていたら、社会の状態はどんなに変わったものとなっていることであろう。これらの原則が守られていたら、いつの時代にも、富める者が貧しい者を圧迫し、貧しい者が富める者を憎悪することから生ずる恐るべき悪が防止されるであろう。それはまた巨大な富の蓄積を妨げるとともに、これらの莫大な財産を築くために不当な賃銀で酷使される幾万の人々の無知と堕落を防ぐのに役立つであろう。それは、いまや、世界を混乱と流血で満たそうとしている幾多の問題に、平和的な解決をもたらせるのに役立つであろう。

果樹園や田畑の収穫物であれ、家畜であれ、手や頭脳の仕事による収入であれ、あらゆる収入の十分の一を神に献納し、さらにまた第二の十分の一を貧民の救済やその他の慈善的な用途にあてることによって、人々は万物が神の所有であるという真理と、人は神の祝福をとりつぐ機会を与えられているという事実を、たえず心に新たに感じさせられた。それは偏狭な利己心を殺し、広い高潔な品性を養うための一つの訓練であった。

神を知り、勉学にも労働にも神と交わり、神のご品性に似ることが、イスラエル人の教育、すなわち神から親に与えられ、その親から子供に与えられるところの教育の根本であり、手段であり、そして目的であった。(教育 37, 38)

聖書の教え–現代の真理–

第 10 課　天からの来訪者（Ⅰ）

天使の足跡

惑星の間を行き来する生物が存在する可能性は、多くの人々の心をとらえてきましたが、それには根拠がないわけではありませんでした。科学者たちは、ただ確率の法則によって、他の惑星に生物が存在する可能性を認めています。聖書の預言者たちは、天における存在が地球を訪れていることを記録してきました。わたしたちの時代においてさえも、義なる人々は、天使の訪問を受けてきたことを証することができます。これら天使たちは人々の事柄に深い関心をもっており、出来事の結果に対して多大な影響を及ぼすことができます。彼らの移動方法は、人類がこれまでに考案したいかなるものにもはるかにまさって信じがたいものです。

今日、欺きとまでは言えなくても、数多くの錯覚が存在することは否めませんが、正直で信頼性のある情報源から証拠が積み重なった場合には、それを無視することはできません。それでも、ここで疑問が生じます。何が真実で、何が偽りなのでしょうか？わたしたちは、これらの天からの来訪者について、どの程度理解することができるでしょうか。そのような疑問に答えるために、わたしたちには証拠を測るための信用できる測定器がなくてはなりません。ここで、わたしたちは主がわたしたちのために何を記録に残して下さったかを知るために、主に頼るのです。

天使とはどのような存在だろうか？

天使は、天における存在であり、神によって創造されました（黙示録 4:11）。彼らは、人類よりも高い地位におかれている被造物です。

「人は何者なので、これを心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。ただ少し人を神よりも低く造って、栄と誉とをこうむらせ」（詩篇 8:4,5）。

天使は、人間のように物理的な肉体をもちません。そのため彼らは、重力、熱、冷たさ等の物理の法則による制限を受けず、乗り物がなくても信じられないような速さで移動することができます。

預言者ダニエルはかつて、人類のために真心からの告白の祈りを捧げていました。その後、彼は自分が祈っている間に何が起こったかを記録に残しました。「わたしがこう言って祈り、かつわが罪とわが民イスラエルの罪をざんげし、わが神の聖なる山のために、わが神、主の前に願いをしていたとき、すなわちわたしが祈の言葉を述べていたとき、わたしが初めに幻のうちに見た、かの人ガブリエルは、すみやかに飛んできて、夕の供え物をささげるころ、わたしに近づき」（ダニエル 9:20,21）。

天使ガブリエルは、どれほど迅速に飛んでくることになったかについて述べています。「あなたが祈を始めたとき、み言葉が出たので、それをあなたに告げるためにきたのです。あなたは大いに愛せられている者です。ゆえに、このみ言葉を考えて、この幻を悟りなさい。」（ダニエル 9:23）。

通常、天使たちを見ることはありませんが、彼らはわたしたちと全く同じように実在します。イザヤは、天使の一種類であるセラピムには、翼と顔と足があり、語ることのできるものとして描写しています（イザヤ 6:1-3）。

ダビデは、イスラエル人が荒野を旅しているときに命をつないだマナについて次のように言及しています、「人は天使のパンを食べた」（詩篇 78:25）。

それらの天の存在の具体的な数は、わたしたちに対して明らかにされていません。しかし、預言者ダニエルは、彼が神の御座の前で見た天使の数について次のように述べています。「彼の前から、一筋の火の流れが出てきた。彼に仕える者は千々、彼の前にはべる者は万々、審判を行う者はその席に着き、数々の書き物が開かれた。」（ダニエル 7:10）。

この数字は比喩的なものではありますが、その数が非常に多いことを示しています。使徒パウロは、彼らについて次のように述べています。「しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の天の祝会」（ヘブル 12:22）。

聖書において、天使たちは、様々な分類に区分されています。神の御座に最も近いのは、セラピムとケルビムです。「ウジヤ王の死んだ年、わたしは主が高くあげられたみくらに座し、その衣のすそが神殿に満ちているのを見た。その上に

セラピムが立ち、おのおの六つの翼をもっていた。その二つをもって顔をおおい、二つをもって足をおおい、二つをもって飛びかけり、互いに呼びかわして言った」(イザヤ 6:1-3)。「イスラエルの牧者よ、羊の群れのようにヨセフを導かれる者よ、耳を傾けてください。ケルビムのうえに座せられる者よ、光を放ってください。」(詩篇 80:1)。

名前をもって自らがだれであるかを明らかにした一人の高い天使は、ゼカリヤという名の人に伝えるべき重要なメッセージをもって、神の御前から遣わされました、「御使が答えて言った、『わたしは神のみまえに立つガブリエルであって、この喜ばしい知らせをあなたに語り伝えるために、つかわされたものである』。…六か月目に、御使ガブリエルが、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の一処女のもとにきた」(ルカ 1:19,26)。

聖なる天使たちは、たえず神への奉仕にたずさわっており、人々を罪の呪いから救い出すための偉大な救いの計画において手助けをしています。「主の使たちよ、そのみ言葉の声を聞いて、これを行う勇士たちよ、主をほめまつれ」(詩篇 103:20)。

「御使たちはすべて仕える霊であって、救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされたものではないか」(ヘブル 1:14)。

本来、すべての天使は神に対して忠実でした。しかし、第2課で学んだように、全体の三分の一の天使がルシファーの反逆に加わり、彼と共に天から投げ出されました。この神に対する反逆により、彼らは神による救いの計画に反対するものとなりました。今、彼らは継続的に、人々を救いの道から導き出し、それによって彼らを永遠の破滅におとしいれようとしています。しかし、わたしたちは、悪天使たち(悪魔たち)によってだまされる必要はない。なぜなら、キリストはカルバリーの十字架上での勝利によって、彼らの指導者であるサタンを打ち負かしたからです(第5課参照)。彼らの最終的な破滅は、今や時間の問題です。

「神は、罪を犯した御使たちを許しておかないで、彼らを下界におとしいれ、さばきの時まで暗やみの穴に閉じ込めておかれた」(ペテロ第二 2:4)。

「主は、自分たちの地位を守ろうとはせず、そのおるべき所を捨て去った御使たちを、大いなる日のさばきのために、永久にしばりつけたまま、暗やみの中に閉じ込めておかれた。」(ユダ6)

天の使たち

天使は、多くの人が信じているように、死者の霊ではありません。人類とは全く異なる系列に属する存在がいるのです。彼らは、人類が創造する前に存在していました。「かの時には、明けの星は相共に歌い、神の子たちは皆喜び呼ばわった。」（ヨブ 38:7）。

この聖句では、彼らの光り輝く外観のゆえに、天使が星として描写されています。

人々が死んだときに天使になるのではなく、また天で天使になることもありません。救われた人々は永遠に人間として存在しますが、しかし、再び自分たちの創造主のみかたちに回復されるのです。「また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた『見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共にすみ、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして』」（黙示録 21:3）。

彼を知るために

That I May Know Him

4月

4月1日

すべての光の源

「イエスは、また人々に語ってこう言われた、『わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう』。」（ヨハネ8:12）

ナザレのイエスは、ご自身を世の光であると宣言された。あなたがたは、主をどのように考えるだろうか。主は、世の中の宗教指導者の中にあって、どのような地位を占めているであろうか。確かに何千何万という人々が偉大なる思想家、思索の人として認められている。すなわち、自分の理論を出版し、その知的な学識で、多くの人の心を魅了した人々である。世に自分の生涯をかけた思想の成果を残した偉人と言われる人々は、この世の中がかつて知った中で最もすぐれた賢人として認められてきた。しかし、これらの人々もキリストと比べることはできない。人間がそういったものを造り出す前に啓示があったのである。人間の有限な知識は、教師の中で最大の教師であられるキリストの教えの中に含まれていて、わたしたちの世界に輝き出てきた驚くべき事柄を見た結果に過ぎないのである。人が展開するいかなる偉大な思想も、キリストを通してもたらされたのである。思想という宝石、知性のひらめきのすべては、世の光によってあらわされているのである。……

キリストは「わたしは世の光である」と宣言されたとき、どんな弁明もなさってはおられない。主は、生活、教え、福音において純粋な教理のあらゆる基礎であられた。太陽が天のより小さな光に比べられるように、すべての光の源であるキリストは、ご自分の時代の教師たちと比べられる。主はすべて彼らよりも前を行かれ、太陽の輝きをもって、世に差し込む喜ばしいご自分の光を発散しておられる。…

有限な心で測るならば、人間は学識があり、偉大であると思われる。しかし彼らの自負する知恵、科学、学問のすべてをもってしても、彼らは、神とまた神がつかわされたイエス・キリストとを知ることができないのである。……過去に生きたどんな人も、あるいはこれから生きるであろうどんな人も、真理の誤ることのない案内者、最高の啓示者になることはできない。人間は、学問の最高の水準に到達しようと求めることはできない。しかし、「神から送られた教師」がおられる。その方は、どの人よりも高い水準におられるのである。いかなる人間の教師も、主に等しくなることはできない。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1897年9月16日）

4月2日

全人類に対するキリストの祝福

「すべての人を照らすまことの光があって、世にきた。」（ヨハネ 1:9）

キリストの恵みは、少数の人だけに限られるものではない。キリストによって天からもたらされた恵みと許しのメッセージは、すべての人に伝わるべきものである。わたしたちの救い主は、「わたしは世の光である」（ヨハネ 8:12）といっておられる。主の祝福は全人類に対するものであらゆる国民、部族、国語、民族に及ぶものである。キリストはすべての隔ての壁を砕くために……ユダヤ人も、異邦人もすべての人が自由の礼拝者となり、神に近づく道を持つために来られた。

天の使者たちは多くの通路を通して、世界のあらゆるところで活動的な交流を果たしている。もし人が真実で熱心な心を持って主を呼び求めるならば、神は天の主のみ座から身をかがめて答えてくださる。主はすべての切望する叫びを聞いて、「わたしはここにいる」と答えてくださる。主は悩みを持ち、圧迫されている人々を起き上がらせて下さる。主は善人同様に悪人にも祝福を与えられる。

キリストが教えられたあらゆる戒めの中に主はご自身の生涯を詳しく述べておられる。神の聖なる律法はこの生ける代表者の中に拡大されている。主は無限な思考の啓示者であられる。主は、どんな不確かな言葉も意見も述べず、ただ純粋で聖なる真理を告げられた。……主はご自身の中に神を、すなわちそこに表現されている無限な愛を間近で見るよう人を招いておられる。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1897 年 7 月 29 日）

神を知ることは人間が持つことのできる最も素晴らしい知識である。世の人々の中には、知識の豊かな人もいる。しかし、彼らは自分の持つ知識を使って、全世界の創造主の美しさ、荘厳さ、そしてその義、知恵、善、聖を見ることをしない。主は主の摂理によって人の間を歩まれる。しかし、主の堂々たる歩みの音は聞こえない。主のご臨在は気づかれない。主の御手は、認識されない。キリストの弟子たちの仕事は神のご品性を世の中に現わすために光として輝くことである。彼らは神のみ言葉から増し加わる光線をとらえ、それを神の誤解という暗闇に覆われている人々に反射すべきである。キリストのしもべたちは、神とキリストのご品性を正しく人々に示さなければならない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1889 年 3 月 5 日）

4月3日

キリストにある信徒の平等性

「あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。……もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。」（ガラテヤ 3:26, 28）

結合の秘訣は、キリストにある信徒たちの平等性の中にある。すべての分派、不和、争いの理由は、キリストからの分離の中に見出される。キリストは、すべての人が引き付けられるべき中心点である。なぜならば、中心点に近づけば近づくほど、イエスのご品性とみ姿に成長し、感情、同情、愛において、お互いがより近づいて来るからである。神にかかわることによって、人間にかかわることがなくなる。

世的華麗さの無価値を知っておられたイエスは、それを表すようなことに何の関心も示されなかった。魂の尊厳さ、品性の高潔さ、原則の気高さにおいて、主は、世の空しい流行よりも、はるかに高くあられた。……主は、人間の喝采を望まれなかった。……あらゆる種類の富、地位、世的階級、そして人間の偉大さの栄誉は、天の誉れと栄光を捨ててこられた主にとっては小さなものにすぎなかった。主は、世的に豪華なものは所有されず、贅沢も顧みられず、飾らず、むしろ謙遜を示された。

貧乏に縛られ、心配に押しつぶされ、労苦を担っている人も、主のご品性と模範の中に、イエスが彼らの試練について、また彼らの環境の重圧について何も知っておられず、人間の欠乏や悲しみについても同情を持たれないと考えるようなものは何一つ見出すことができない。主の謙遜な日々の生活は、主の誕生と環境の低さに調和していた。無限の神のみ子、命と栄光の主は、最も低い階級の人生を送るために、屈辱の中に下降して来られた。それは、誰もが主の臨在の前から排除されたと感じることがないためであった。主はご自身をすべての人に近寄りやすい方にされた。主は、ある好ましい人だけを選んで交わり、他の人を無視なさるということがなかった。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑ 1 巻 259, 260）

すべての人びとは、創造によって、一つの家族であり、贖罪によって、一つなのである。キリストは、あらゆるへだての壁をこわし、神殿のどのへやをも解放するためにこられた。それは、すべての魂が自由に神に近づくことができるようになるためであった。キリストの愛は、どんなところにでもゆきわたって行くほど、広く深く満ちあふれたものである。（キリストの実物教訓 363）

4月4日

兄弟愛のうちにつながる

「神を敬い義を行う者はどの国民でも受けいれて下さることが、ほんとうによくわかってきました。」（使徒行伝 10:35）

イエスは、聖書の宗教が利己的な排他性や個人的な快楽から成っているのではなく、愛の行動を実践し、他の人々に最大の善をもたらすこと、本物の善から成っていることをお教えになった。……主のご生涯には、どんな誇りも、見せかけもなかった。……主は全世界の創造者であられたが、地上生涯の間、ご自身について「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらする所がない」（ルカ 8:20）と言われた。……

イエスは、天の君主、栄光の王であられた。しかしそれでいながら、人としてのご生涯において、このお方は忍耐づよく親切で礼儀正しく寛容であり、小さな子供たちに対する愛に満ち、誘惑されている者、試練を受けている者、しいたげられている者たちに対する憐れみと同情に満ちておられた。ご自身について次のように言われた、「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ」（ルカ 4:18）。

このように恵み深い使命を成し遂げるためにこられたにもかかわらず、主には家もなくしばしば飢え渇かれたのである。主ご自身の国の人々は、術策や、ねたみと嫌悪の陰謀をもって主をつけねらった。……

主は最大の辱めの死を遂げられた。そして一人も滅びないですべてが悔い改めに至ることができるように、十分な完全な犠牲をなされた。主は、すべての悔い改めた人々、信じる魂が罪を負われた主を見出すことができるように、贖いをなされた。もし主を信じる人々が主のみ言葉、すなわちそれは霊であり命であるが、これらの言葉を実行しさえするならば、もし彼らが主の模範に従い、世に対する尊い光となるならば、彼らは、いかなる人間の哲学も完成できないことを、世のためになすであろう。キリストの教訓は身分、すなわちユダヤ人と異邦人、自由人と奴隷の区別のない宗教の基礎を据えている。人々はお互いに兄弟関係に結ばれ、神の前に平等である。なぜならば、彼らは皆生けるぶどうの木の枝である。彼らは自分たちの個人的救い主として、キリストを信じているのである。（ユース・インストラクター 1894 年 8 月 16 日）

4月5日

すべての時代のための一つの計画

「確かに、主イエスのめぐみによって、われわれは救われるのだと信じるが、彼らとても同様である」（使徒行伝 15:11）

主の真理は、各時代の主の民たちの必要に答えるために違った発展はしてきたが、あらゆる時代を通して、同じである。旧約時代にあっては、あらゆる重要な働きは、聖所に密接な関係があった。偉大なる「有ってあるもの」といわれた方は、至聖所にとどまられた。……そこの恵みの御座の上には、ケルビムの翼がかげを落とし、主の栄光のシェキーナがとどまり、主の臨在の永遠のしるしがあった。宝石をちりばめた胸当ては、聖所のその聖なる場所から、エホバの厳かな使命を民たちに知らせた。聖なる方、天地の創造者が、このようにして主の栄光をあらわし、主のみ心を人の子たちにあらわされたその時代は、またすばらしい時代であった。

その時代の型であった犠牲とささげ物は、罪深い人間のために、完全な献げ物となるべき方であるキリストをあらわしていた。これらの神秘的な象徴、影としての型が来るべき救い主を指示していたかたわら、イスラエル人には、その時に、救い主がおられた。それは、昼には雲の柱、夜は火の柱でおおわれた主であって、彼らの旅路を導かれ、そして民たちに聞かせるためにモーセに直接み言葉を賜った主であられた。……人間の創造において、父と一つであられた方が、古代の人々の命令者、律法授与者、そして案内者であられた。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1886 年 3 月 2 日）

多くの人は、イスラエルの時代を、闇の時代として、すなわちキリストがなく、悔い改めも信仰もない時代だと考えている。多くの人々は、イスラエルの子らの宗教は、キリストを信じる信仰とまったく関係のない形式と儀式から成り立っているという誤った教理を奉じている。しかし、今日の人々がキリストによって救われているように、その時代の人々もキリストによって救われたのである。……キリストは、実体なる主がわたしたちの世界に来られる時まで、あらゆる種類の犠牲や、ささげ物において、型を影として続けられてきたのである。ヘブル人たちは、救い主の来られることを喜んだ。わたしたちは、再び来られる救い主を喜んでいる。……キリストの血は、古代のイスラエル人に対してそうであったように、わたしたちにも有効なのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1901 年 7 月 18 日）

4月6日

キリストを通して神に

「すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。」（コリント第二 5:18）

神が選民を扱われた方法がしるされている聖なる歴史全体を通じて、偉大な「わたしは有る」と言われたお方の栄光に輝く足跡をたどることができる。主が、イスラエルの唯一の支配者として認められ、律法を人々にお与えになった時ほどに、彼の力と栄光が、人々にあらわされた時はなかった。そのとき、王権は人間の手に握られていなかった。目にこそ見えなかったが、イスラエルの王のはなばなしい出現は、言葉に表現できない荘麗さといかめしさがあった。このような神の臨在があらわされたときは、いつもキリストによって神の栄光が現わされた。救い主がこの世に降臨なさった時ばかりでなく、人類の堕落およびその贖罪の約束が与えられたとき以来、各時代を通じて「神はキリストにおいて世をご自分に和解させ」ておられた（コリント第二 5:19）。キリストは、家長時代とユダヤ時代の両時代にわたって、犠牲制度の基礎であり中心であった。われわれの先祖が罪を犯して以来、神と人間の間には直接の交わりはなかった。父なる神は、この世界をキリストの手におゆだねになった。そして、神は、キリストの仲保の働きによって、人間を救い、神の律法の権威と神聖さを擁護なさるのである。堕落した人間と天との交わりは、すべてキリストを通じて行なわれた。われわれの先祖に贖罪の約束を与えたのは、神のみ子であった。家長たちにご自分をあらわされたのは、キリストであった。アダム、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、そしてモーセなどは福音を理解した。彼らは人間の身代わりと保証であられるキリストによる救いを待望した。……

聖所の中の厳粛な儀式は、その後の各時代を通じてあらわされる大真理を象徴していた。イスラエルの祈りと共にのぼる香煙は、キリストの義を代表している。ただこれだけが、罪人の祈りを神に受け入れられるものにする。血のしたたる祭壇上の犠牲は、来たるべき贖い主を示していた。そして、至聖所からは神の臨在のしるしが輝き出ていて、人はそれを認めることができた。こうして、暗黒と背教の時代を通じて、人々の心の中に信仰が生々しく保たれ、ついに、約束のメシヤの来臨の時にまで及んだのである。イエスは、人間のかたちをとって地上に来られる前から、ご自分の民の光－世の光であられた。……地上の住民に注がれた天の輝かしい光はすべて彼から来たのである。キリストは贖罪の計画の中で、アルパであり、オメガであり、始めであり、終わりであられる。（人類のあけぼの上巻 433-436）

4月7日

キリストにあって一つの家族

「こういうわけで、わたしはひざをかがめて、天上にあり地上にあって『父』と呼ばれているあらゆるものの源なる父に祈る。」（エペソ 3:14，15）

キリストを信じることによって、わたしたちは、王の家族の一員、神の相続人、イエス・キリストの共同相続人になる。わたしたちは、キリストにあって一つである。カルバリーの光景が見えるようになり、人の性質を取って人のために律法ののろいを負われる王なる受難者を眺めるとき、すべての民族的差別、すべての分派は消滅する。あらゆる階級の栄誉や身分制度の誇りはなくなってしまう。神の御座からカルバリーの十字架の上を照らしている光は、人間が造った階級や人種の間の分離を永久に終わらせる。あらゆる階級の人が一つの家族、天の王の子となるのである。それは地上の権力によってではなく、神が多くの息子むすめたちを栄光へ連れていくことができるように、ご自分の御子を貧困と苦しみと屈辱の生涯に、また恥と苦悩の死に渡された神の愛と通してである。

神の評価において人を高い位置におくのは、立場や有限な知恵や資格や才能ではない。人間の知性、理性、タラントは、主の永遠のみ国の建設のために、主の栄光のために費やされるべき神の賜物なのである。天の目に価値があり、墓から生き返るものは、霊的また道徳的品性である。……

天で神の家族の一員となる価値があるとみなされるすべての者は、互いを神の息子むすめとして認める。彼らはみな自分の力と許しを同じ源から、すなわち彼らの罪のために十字架につけられたイエス・キリストから受けていることを自覚する。彼らは、もし義の白い衣をまとって彼らが聖徒の輝かしい集いの中にいたいと思うならば、自分の品性の衣を主の血で洗い、主のみ名において父に受け入れられるべきであることを知る。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1巻 258,259）

家族は、父の名に従って呼ばれる。天の家にはいる人は、彼らの額に印された天父の名と、神の都の名を持っているであろう。彼らは天の銘をにない、神性にあずかる者となるであろう。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892年7月19日）

4月8日

クリスチャンの要点

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ 17:3）

クリスチャンの恵みと経験の全体の要点は、キリストを信じること、すなわち神と、神がつかわされた御子とを知ることから成っている。しかし、ここで多くの人が失敗する。なぜなら、彼らは神を信じる信仰が足りないからである。彼らは自己否定と謙遜のうちにキリストとの交わりに導き入れられることとを望む代わりに、いつも自己が最上となることを求める。……もし、わたしたちが、神の愛を認めさえすれば、どんなにわたしたちの心はふくらみ、わたしたちの限られた同情心は大きくされ、自己という氷のような障害は打ち破られ、わたしたちの理解力は、現在よりも、もっと深いものになることであろう。……

わたしたちのために主が耐えられた謙遜に心の底から感動することもなく、主の屈辱がわしたちの自我を低くし、イエスを高めるように導かないのは、わたしたちが神を知らないからであり、また、キリストを信じる信仰を持っていないからである。……主があなたを愛されたようにあなたも主を愛したならば、あなたは神のみ子の苦しみの暗い事件における経験を避けようとはしないであろう。

主の苦しみにおいて、主と共にあずかる者となるためには、わたしたちは世の罪を取り除かれた神の小羊を見なければならない。わたしたちが、主の謙遜を瞑想し、主の自己否定と自己犠牲を見つめるとき、わたしたちは、罪を犯した人間に表された神の愛に対して驚きで満たされる。わたしたちがキリストのために、屈辱的な性質の試練を経るよう召されるとき、もしわたしたちがキリストの思いを持っているなら、柔和をもってそれらを甘んじて受け、傷ついて不快に思ったり、悪に抵抗したりしないであろう。わたしたちはキリストのうちに宿っている精神をあらわすであろう。……わたしたちが贖いという偉大な計画を実行する際に主と協力するためには、何がキリストの犠牲であり、このお方の働きと苦難であるかを理解しなければならない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 5 月 24 日）

品性の中に刻みつけられた神と、イエス・キリストについての知識は最高の教育そのものである。それは天の都の門をあける鍵である。この知識は、キリストにあるすべての者が所有するように、神が、意図されたものである。（両親、教師、生徒への勧告 37）

4月9日

かわく者のための水

「祭の終りの大事な日に、イエスは立って、叫んで言われた、『だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。』（ヨハネ 7:37）

年に一度、仮庵の祭りの際に、イスラエルの人々は自分の父祖たちがエジプトからカナンの地に旅をしたときに、荒野でテントに住んだことを思い起こした。この祭りの最後の日の奉仕は、特別におごそかなものであった。しかし、最大の関心は、岩から水が出たことを記念する儀式に集中されていた。金の器に、シロアムの水が汲まれて、宮に運ばれ、そして、ぶどうの汁に混ぜられた後に、祭壇の上の犠牲に注がれた時、大いなる喜びが起こった。この瞬間、群衆の混乱と喜びの声の上に一つの声が聞こえた。「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい」。それは人々の注意を捕らえた。すべての人が、表面上は喜んでいたが、優しいあわれみを持って投げかけられるイエスの目は魂が命の水に渇ききっているのをごらんになった。……

「わたしのところにきて飲むがよい」と言われたやさしい招きは、各時代を経て、現代に至っている。そして、わたしたちは、わたしたちの前に開かれた真理の泉を喜んでいるが、その生ける水は、わたしたちの渇いた魂を生き返らせるほどまでにはなっていない。ちょうど、キリストの時代のユダヤ人のそれと似通った立場に立っているのである。わたしたちは飲まなければならないのである。……

イスラエルの人々が、神が彼らの父を導かれ、そして、エジプトから約束の地への旅路において、彼らを主が奇跡的に保護された救いを記念したように、現在の神の民は、感謝をもって、自分たちを世から導き出し、過ちの暗黒から、真理の尊い光に、導き出すように主が計画された色々な道を思うべきである。……わたしたちは、感謝をもって、昔の道しるべに注意し、わたしたちの心をわたしたちの恵み深い保護者の慈愛の記憶で生き生きとさせていなければならない。……

わたしたちが前に向かって旅をする時、キリストの「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい」という招きを受け入れて自分のものとすることができるとは、何という祝福された特権であろう（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1885 年 11 月 17 日）

4月10日

飢える者のパン

「イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。」（ヨハネ 6:35）

多くの人が飢え、力がないのは、天から来るパンを食べる代わりに、あまり重要でない事柄で心を満たすからである。しかし、もし罪びとが命のパンにあずかるならば、彼は、力を得、回復され、生き生きとした人になるであろう。天から下ってくるパンは、人間の弱い活力に新しい命を吹き込むであろう。聖霊は、神のものを持ってきて、それらを彼に示すであろう。そして、それらを受け入れるならば、彼の品性はすべての自我から清められ、天のために、精練され清められるであろう。

滅びの淵に立っている不注意で無関心でのんきな人に対して、キリストは、「あなたの心の扉を開きなさい。わたしを中に入れなさい。そうすればあなたを神の子供としよう。わたしはあなたの弱さを変えて、罪深い性質を神のかたちに変え、それに、美と完全とを与えよう」と言っておられる。……

キリストは、わたしたちに命のパンを与えられるだけではなく、主が与えられる命の水は、永遠の命のために湧き出る泉である。それは、命を与える力、清める効力を持っている。なぜなら、それは、神のみ座から流れてくるからである。

神に自分たちの中で、働いていただくようにする者は、キリスト・イエスにある完全な男女の姿に成長する。心と体のすべての力は、神の奉仕のために使われる。……主は、主を受け入れる者に、お与えになるすばらしい祝福を持っておられる。主は、力において力強く、はかりごとにおいてすばらしくあられる。聖霊の奉仕によって主は、主のみかたちをわたしたちの品性の上に、押印しようと望まれる。もしわたしたちが、主に育まれるならば、キリスト・イエスにあって新しい被造物となるであろう。真のクリスチャン品性の徳、キリストの品性の中に表されているすばらしさが、御霊によって生まれた生命の中に見られるであろう。人間はその人間の性質を持ちながら、神の性質にあずかるものとなるであろう。キリストの力は、その人のあらゆる部分を潔め、命と活力を全体に行き渡らせ、霊的能力を発達させるように働かれるであろう。（ユース・インストラクター 1897年11月11日）

4月11日

キリストにあずかる者

「わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。」（ヨハネ 6:51）

パンは、わたしたちが食べて体の一部とならない限り、益とはならない。キリストの知識もわたしたちが、品性において主のようになり、同じさまになり、主の御霊を世の中に示すようになるのでなければ、何の益にもならない。キリストが、わたしたちの中に、栄光の望みとならないならば、わたしたちにとって無意味なものである。もしわたしたちが主を個人的救い主として知るのでなければ、神学的知識は何の益にもならない。水は、わたしたちがそれを飲まない限り、渇きをとめない。パンは、わたしたちがそれを食べない限り、飢えを満たさない。もしわたしたちが霊的にキリストに養われるならば、わたしたちはキリストの性質にあずかる者となり、このお方の肉を食べているのである。……

キリストが、これらの言葉を言われた時、キリストの弟子の多くは主が意味した事柄に対して疑いを持っていた。それで主は、これらのことを説明して「人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である」といわれた（ヨハネ 6:63）。

もしキリストが、あなたにとって価値ある宝となるならば、もし主の中に最大の満足を見出すならば、もしこのお方を他のすべてにまさって讃え、大切にするならば、もしあなたが主を得るためには、他の物を失ってもよいと思うならば、あなたはこのお方の肉を食べ、血を飲んでいるのであり、このお方のみかたちに形づくられるようになる。招きはこれである、「さあ、かわいている者はみな水にきたれ。金のない者もきたれ。来て買い求めて食べよ。あなたがたは来て、金を出さずに、ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ。なぜ、あなたがたは、かてにもならぬもののために金を費し、飽きることもできぬもののために労するのか。わたしによく聞き従え。そうすれば、良い物を食べることができ、最も豊かな食物で、自分を楽しませ」よ（イザヤ 55：1, 2）。

全天は失われた人類の贖いを喜んでいる。キリストは人の為になそうと計画された事柄を心の底から喜ばれた。主はわたしたちが求めるのを、あるいは考えることができる以上の事柄をはるかに豊かになそうと望んでおられる。主の言い表し得ない愛の泉は無尽蔵で、主を信じるすべての者に向かって流れている。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1896 年 3 月 12 日）

4月12日

衣がえ

「わたしは主を大いに喜び、わが魂はわが神を楽しむ。主がわたしに救の衣を着せ、義の上衣をまとわせて、花婿が冠をいただき、花嫁が宝玉をもって飾るようにされたからである。」（イザヤ 61:10）

「時に主は大祭司ヨシュアが」―神の戒めを守っている人々の代表者―「主の使の前に立ち、サタンがその右に立って…いるのをわたしに示された」（ゼカリヤ 3:1）。

キリストはわたしたちの大祭司である。サタンは主の前に対して、夜も昼も、兄弟たちの告発者として立っている。彼の熟練した力を持って、キリストの擁護の力を引っ込めさせるような理由を持って、品性に対し、あらゆる異議を申し立てることのできる事柄を提示している。このように、サタンは、彼が罪を犯させる原因となった者を失望させ、破滅させようと試みている。しかし、キリストは、すべての罪人の為に贖いをなされた。わたしたちは信仰によって、わたしたちの弁護者が仰せになっているのを聞くことができないであろうか、「サタンよ、主はあなたを責めるのだ。……これは火の中から取り出した燃えさしではないか」（ゼカリヤ 3:2）。

「ヨシュアは汚れた衣を着て」いた。このように罪人は、熟達した偽りの力によって人間を神への忠誠から引き離してきた敵の前に現れる。罪と辱めの着物を、敵は自分の誘惑に負けてきた者たちに着せている。そして、彼は、キリストが彼らの光、彼らの弁護士になられることは正しいことではないと宣言する。……イエスのみ言葉を聞きなさい……わたしは、彼の道徳上の罪を消す。わたしは彼の罪をおおう。……

汚れた衣は脱がされる。なぜならば、キリストは「あなたの罪を取り除いた」といわれているからである。罪悪は、無罪の潔白な神の聖なるみ子に移されている。そして、人間、すべての主の前に立って仕えている者は、あらゆる不義から清められ、キリストの与えられる義を着せられる。なんという衣がえであろう。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ] 4巻 1178）

主はあらゆる罪を取り除かれ、天の織機で織られたご自分の義の衣をわたしたちに着せられる。……わたしたちは、天の家族の養子となり、そしてわたしたちは、従順な者たちのために用意された家を継ぐのである。（原稿 17,1893 年）

4月13日

キリスト、わたしたちの平和と義

「そして、イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救主として、ご自身の右に上げられたのである。」(使徒行伝5:31)

罪を持つ人間には一つの糸といえども織ることのできない天の織機で織られた汚れのない義の衣を持っておられる主は、神の右におられ、主を信じる子供たちに、主の完全な義の衣を着せようとされている。神の王国に救われた者は、自分自身に誇り得る何物をも持っていない。讃美と栄光は、すべて神に帰せられるのである。……

今なすべき罪人の働きは、神との平和を作ることではなく、自分の平和と義としてキリストを受け入れることである。このようにして人間は、キリストと一つになることによって、神と一つになる。心が聖なるものとされるのは、キリストを信じる信仰による以外に方法がない。しかし、多くの人は悔い改めを、人がキリストのところに来る前に、自分自身で生み出さなければならない類いの準備だと考えている。彼らは、自分たちの仲保者、キリストを見出すために、自分自身で道を歩まなければならないと思っている。許される前に悔い改めなければならないのは当然である。しかし罪人は悔い改める前に、キリストのところに来なければならない。魂に力を与え、光を与えるのは、キリストの徳である。そうであればこそ、悔い改めは、受け入れられるものとなるのである。……悔い改めは確かに罪の許しと同様に、イエス・キリストの賜物である。悔い改めは、キリストなしには経験できない。なぜならば、わたしたちに救いが適用される土台として、悔い改めを起こしてくださる方は、主であられるからである。人間が悔い改めに導かれるのは聖霊の働きによってである。悔恨の恵みが来るのは、許しの賜物と同様に、キリストから来る。罪の許しと同時に悔い改めは、キリストの贖いの血潮によってのみつくられる。神は、お許し下さる者に、最初に悔い改めを起こされるのである。(ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894年12月6日)

罪人がキリストを受け入れ、主にあって生きる時、イエスは、彼の罪、弱さを取られ、悔い改めた魂をご自分に接ぎ木され、枝がブドウの木に接ぎ木されるように彼が、キリストとの関係を保つようにしてくださる。わたしたちは、イエス・キリストからの徳を受けるのでなければ、何物も持たず、またわたしたちは、何者でもないのである。(同上6月21日)

4月14日

信仰によって義とされる

「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。」(ローマ 5:1，2)

神が罪人を許し、罪人が当然受けるべき刑罰を許し、彼を、罪を犯したことがなかったかのように扱われる時、主は彼を天のあわれみの中に受け入れ、キリストの義の功績によって彼を義とされる。罪人は、罪を犯した世の罪のために犠牲となられた神の愛される御子によってなされた贖罪を信じる信仰によってのみ義とされることができる。だれ一人自分自身の行為によって義とはされ得ない。彼はキリストの苦難、死、復活の徳によってのみ、罪の有罪、律法の宣告、違法の刑罰から救われることができる。信仰は義を獲得することのできる唯一の条件である。そして、信仰は信じることだけでなくより頼むことをも含んでいる。……

罪人は失われた羊として表されている。そして、失われた羊は羊飼いに見つけ出され、おりに連れ帰されるのでなければ、おりに帰ることはない。だれも、自分で悔い改め、自分を義の祝福にあずかる者とすることはできない。主イエスは、絶えず、罪びとの心に感動を与え、神の小羊であるご自身を見上げるようにと望んでおられる。……わたしたちはイエスが魂を引き付け、力を与えられる以外に霊的生涯に歩みだすことはできず、悔い改めの経験に導かれなくては悔い改めの必要を認めることができない。……

救いをもたらす信仰は一時的な信仰ではない。また、単なる知的同意でもない。それはキリストを個人的救い主として受け入れる心に根ざした信仰である。……

もし魂がキリストを救いの唯一の希望として掲げるならば、純粋な信仰が現わされる。信仰はその所有者が魂のあらゆる情熱をキリストの上に置くように導く。彼の理解力は聖霊の支配の下に置かれ彼の品性は聖なる形に従って形づくられる。主の信仰は死んだ信仰ではなく、愛によって働く信仰である。そして、信仰は彼を、キリストの美を仰ぎ見る者とさせ、聖なる品性に似た者とするのである。(ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1巻 389 － 392)

4月15日

わたしたちの完全な模範

「そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか』。シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです』。」（マタイ 16:15，16）

人間の目にはイエスはただの人にすぎなかったが、彼は完全な人であられた。主はご自分の人性に神のご品性を表された。神は、神ご自身の特性―神の力、神の知恵、神の善、神の純潔、神の誠実、神の霊性、神の寛大さを、神のみ子に具現化された。主の中に、人間ではあられるが、すべての品性の完全さ、天のあらゆる聖なる卓越性が存在していた。そして主の弟子たちの「わたしたちに父を示してください。そうしてくだればわたしたちは満足します」という要求に対して主は答えて「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか」「わたしと父とは一つである」と答えられた（ヨハネ 14:8，9；10:30）。

……イエスに反対するパリサイ人たちの強い告発は「あなたは人間であるのに、自分を神としている」（ヨハネ 10:33）ということであった。そしてこの理由で、彼らはイエスを石で打とうとした。キリストはご自身についての、このような勝手な憶測に対して、弁解をなさらなかった。主は、告発者に対して「あなたがたは、わたしを誤解している。わたしは神ではない」とは言われなかった。主は、人性のうちに神を表わしておられた。けれども、主は、あらゆる預言者たちの中で、最も謙遜であられた。そして、主は人間の品性が完全であればあるほど、単純で、謙遜になる者であるという真理を、そのご生涯で示された。人間が、神性にあずかる者となることにより、人生においてどんな者になるべきかの模範を主は人間に与えられたのである。……

キリストが、人間の間に来られて以来、数世紀が過ぎ去ったが、キリストが救い主であられたということのわたしたちの確信は、少しも減じていない。「あなたがたはキリストをどう思うか」という質問は（マタイ 22:42）、今日、繰り返されている。そして少しの躊躇もなく、「彼は世の光である。世界が、これまでに知った最大の宗教家であり、教師である」という答えが与えられている。今日、彼の声を聞くすべての者、彼の教えに示された原則を学ぶすべての者は、彼の時代にユダヤ人たちが言ったように「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」「この人がキリストかも知れません」と心から言うに違いない（ヨハネ 7:46；4:29）。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1897 年 9 月 16 日）

4月16日

全き救い主

「地の果なるもろもろの人よ、わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる。わたしは神であって、ほかに神はないからだ。」（イザヤ 45:22）

多くの人は神聖な狭い道を歩むことを困難な仕事としてしまっている。この祝福された平安と休息の道も今日多くの者にとって、昔ほど身近なものではないようである。彼らは身近なものをはるかに離れてながめ、イエスが非常にわかりやすく仰せになったことをいたずらに複雑なものにしている。彼は「道であり、真理であり、命で」あられた（ヨハネ 14:6）。救いの計画は神のみ言葉の中にわかりやすく示されている。しかし世の中の知恵は常に求められてきたのに、キリストの義の知恵はほんの少ししか求められてこなかった。そしてイエスの愛の内に憩うこともできた人々が多くのことについて疑い続け、悩んでいるのである。……

わたしたちは罪によって傷つき、汚れている。ライ病から癒されるにはどうすればよいだろうか。荒野においては主は、反抗的なイスラエル人に毒蛇がおそいかかるのをお許しになった。その時モーセは銅の蛇を高く掲げ、これを見上げた蛇にかまれて傷ついた人々はみな救われた。しかし多くの人々はこの天から示された救いに対して興味を示さなかった。……

もしあなたが自分の欠乏に気づいたなら、その言い訳をしたり悲しんだりすることに全力を費やしてはならない。ただ見上げてそして生きなさい。イエスはわたしたちの唯一の救い主である。それにもかかわらず癒される必要のある幾百万の人々は彼が提供されるあわれみを拒絶し、彼の恵みによりたのんで滅びを免れようとしないのである。……サタンはあなたには救いはなく祝福されることもないとささやく。それは本当であり、あなたには救いはない。しかしそういうものの前にイエスはあげられている。「わたしには救い主がある。わたしは彼により頼む。彼はわたしを絶望の内に置かれない。わたしは彼のみ名によって勝利する。彼はわたしの義でいまし、わたしの冠である。」……

あなたは自分が罪深く、滅び行くものに見えるかもしれない。しかしこのゆえにあなたには救い主が必要なのである。もしあなたに告白すべき罪があったら猶予してはならない。これらの時は黄金にもひとしい。……義を求めて、飢え渇く人々はイエスのみ約束に従って満たされるであろう。尊い救い主！彼のみ腕はわたしたちを受けるため開かれ彼の大いなる愛の心はわたしたちを祝福するのを待ち続けておられるのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年 7 月 1 日）

4月17日

信仰を告白するだけでは十分ではない

「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」（マタイ 7:21）

宗教を信じていると告白しても、それに値するような真心で真実な良い行いが伴わなければ何の価値もない。……大いなる信仰告白をしても敬虔の実を結んでいない人々は、「あなたがたはその実によって彼らを見分ける」ために、彼らが真のぶどうの木につながっていないことが明らかになる。彼らは枯れた枝なのである。……

宗教が何であるかについて教えられている誤った教理のゆえに、多くの人々は改心しても困惑してしまっている。キリストのもとへ行くことは教会に加わること以上の意味がある。教会員名簿に記録されている名前の多くは、小羊の命の書には書かれていない。キリストのもとへ行くことは重い知的な努力や苦労を要求されていることではない。それは主のみ言葉のうちに神がご計画になった救いの条件を単純に受け入れることである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1888 年 2 月 14 日）

神はわたしたちが心から喜んで奉仕することを望んでおられる。神は人類の益のために働かせるようにと、わたしたちに論理的に考える力や才能というタラント、また資金や感化力を与えてこられた。それはわたしたちが世の前にこのお方の霊を表すことができるためであった。尊い機会と特権がわたしたちの手の届くところにある。そしてもしわたしたちがそれらをなおざりにするなら、わたしたちは他人から盗み、自分自身の魂を欺き、わたしたちの造り主の辱めているのである。わたしたちは裁きの日にこれらの軽視した機会に怠った特権の責めを受けたくない。未来に対するわたしたちの尽きることのない関心は、現在神から他の人々の救いのためにわたしたちに託された才能を伸ばし、義務を勤勉に果たしているかどうかにかかっている。……

真の宗教は神の律法の原則―神を愛し、人を愛する―を成し遂げる。天に受け入れられる人々は、彼らの才能を神の栄光と人類の幸福のために尽くしてきた人々である。彼らは神と共に働く人であり、主が天の雲に乗って再臨される時に主の承認を受けるであろう。宗教は信仰を表明する以上のものであり、衝動的な感情以上に深いものである。それは神のみ心をなすことである。（同上）

4月18日

神が要求されている義

「わたしは言っておく。あなたがたの義が律法学者やパリサイ人の義にまさっていなければ、決して天国に、はいることはできない。」（マタイ 5:20）

律法学者やパリサイ人の義は利己的な性質で表面的なものであった。神が要求しておられる義は外面と内面両方である。心は清められなければならない。でなければキリストはその中にお入りになることはできない。生活は神のみ心と一致しなければならない。（手紙 102，1901 年）

外面的な形は、内面的な敬虔に変わることはできない。ユダヤの教師たちは自分自身を正しいものとして褒めそやした。そして彼らと異なる人々はすべてのろわれた者と呼ばれ、彼らに対して天の門は閉ざされていると言っていた。彼らの学校で学ばない人々には義はないと宣言していた。しかし彼らの批判や、要求、また外見や儀式などのすべてをもってしても彼らは神の前には罪人であった。彼らは主のみ前には非常に尊い人を見下し、軽蔑した。……

人間の策略、人間の計画、人間の勧告には何の力もなくなる。キリスト再臨の間近い時代の教会は、ただキリスト・イエスの内にあるときにのみ立つことができる。教会は「キリスト・イエスにおいて上に召して下さる」終わりの時が近づくにつれ、いよいよ敬虔に進み、熱心を増し加え、よりよく理解することを救い主から求められている。

行くべき栄光の真理は、神の民の前にある。彼らが聖書の中にあると思ってもみない特権と義務がキリストに従う者の前に開かれている。彼らは謙遜な服従の道に従って行き、神のみ心をなす時に、神のみ言葉を、もっと深く知り、正しい教理に確固として立つことができるのである。

聖霊のバプテスマは、人間の想像を追い払い、自己推薦の柵を打ち壊し、「わたしはあなたと区別された者だから」と言うような感情を持つことをやめさせるようになるのである。主の民の内に、謙遜な精神がすべてを覆い、もっと信仰と愛があり、自分の意志は高められずに……キリストの精神、キリストの模範が、現わされるであろう。わたしたちはイエスの働きと、イエスの道にもっとしっかりと従って行くであろう。……イエスの愛はわたしたちの心に満ち溢れるであろう。（手紙 5，1889 年）

4月19日

生活を清める信仰

「しかし、神の人よ。あなたはこれらの事を避けなさい。そして、義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求めなさい。信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。」（テモテ第一 6:11，12）

救いに必要なことはイエスを信じることであると多くの人は皆教えているが、真理の言葉はそれについてなんといっているであろうか？―「行いのない信仰も死んだものである」（ヤコブ 2:26）。わたしたちは「信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて永遠の命を獲得し」、十字架を高く上げ、自己を否定し、肉欲と戦い、そして救い主の足跡に日ごとに従って行かなければならない。……

救いを得るためにあなたがしなければならないことは何もないと考えることは致命的な間違いである。あなたは天からのみ使いと協力しなければならない。……道には掲げなければならない十字架があり、あなたが永遠の都に入る前によじ登るべき壁があり、真珠の門に到達する前に上らなければならないはしごがある。あなたは自分の無力と弱さを認め、助けを求める時、天の城壁の窓から「わたしの力にたよって……」（イザヤ 27:5 英語訳）という聖なる声が聞こえてくる。……

キリストとサタンの間で戦われた争闘は暗黒の王子の黒い旗の下を去り、インマヌエルの血染めの旗の下に集まったすべての魂の間で今も繰り返されている。悪人は天に対して真実であろうとする人々をその忠誠から引き離そうとして非常に巧妙な誘惑を持ってくる。しかし、わたしたちは、わたしたちの力のすべてを神への奉仕に向けるべきである。その時わたしたちは敵のわなに落ちることから守られるのである。

肉体的、または知的な力を弱めるどのような行為も、創造主に奉仕すべきあなたを、ふさわしくない者とする。わたしたちは心から神を愛すべきである。もしわたしたちが主の栄光のために専心するならば、主のみ心にふさわしく食べたり、飲んだり、装ったりするようになる。クリスチャンになるということがどういうことを意味するかと言うことを悟る人はだれでも、弱めたり、汚したりするあらゆることから自分自身を清く守るのである。彼は習慣のすべてを真理のみ言葉の要求するものと調和させるようになり、ただ単に信じるだけでなく、聖霊による形成に従っている間、恐れかしこみつつ彼自身の救いを完成するようになるであろう。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1888 年 3 月 6 日）

4月20日

単純な信仰と疑いのない確信

「しかし、神の人よ。あなたはこれらの事を避けなさい。そして、義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求めなさい。信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。」（マタイ 19:29）

多くの人々はこの真理を確信するが、しかし、夫または妻のどちらかが彼らの歩を妨げる。キリストの苦しみにあずかろうとする人が、どうして主のみ心に従い、主の働きをなすことを拒んだりすることができるだろうか。……品性を安全に到達させる単純な信仰の内にまた服従の道に従って行きながら、それがあるのである。……

キリストはわたしたちにこの高い標準に到達できる十分な力をお約束なった。彼は仰せになっている。「わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。この世は……それを受けることができない」（ヨハネ 14:13 － 17）。

このみ言葉を少し考えてみよう。なぜこの世はこの真理を受けることが「できない」のだろうか？「この世はそれを見ようともせず、知ろうともしない」（ヨハネ 14:17）からである。この真理に従うことを望まないから、世は真理に敵対して同盟を結んでいる。この真理を認めているはずのわたしはどうだろうか。世が光よりも暗黒を選んでいるからといってこの救いの力に対して自分の目や心を閉じていないだろうか。自分の隣人が麦と一緒に束ねられるのを拒んだからといって、自らを毒麦の束にしばりこんではいないだろうか。わたしは親類や友人が神から遠ざかっていく不従順の道を選んで行ったからといって、自分の心を従順へと導く真理の証拠である光を拒んではいないだろうか。わたしの隣人や友人がその真理がイエスの内にあるとは解釈しようとしないからといって真理の知識に対しわたしは心を閉ざしていないだろうか。わたしは隣人が小人のままでいることに同意しているからといって、わたしの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識のうちに成長することを拒んではいないだろうか。……

わたしたちは単純な信仰と絶対的な服従の価値についてどんなに評価してもしすぎることはないのである。（手紙 119，1895 年）

4月21日

品性の尺度

「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。」（コリント第一 13:4 − 7）

主の感動を受けた使徒を通して、キリストは、わたしたちに、キリストの愛に染まった品性の尺度を示された。わたしたちは、キリストの印を押され、主と同じさまにならねばならない。この手本は、キリストにあって、そして、キリストによって到達できる高さと可能性を知るために与えられているものである。主が示されている標準は、主にあって完全である。そして、主のいさおしによってわたしたちはそれに到達できる。わたしたちは、不十分な者である。なぜならば、天のものを見上げるよりも、地上のものを見て満足するからである。栄光から栄光に変えられるのは、キリストを見ることによってである。俗事を見ている目は高貴にされなければならない。……（手紙 102，1899 年）

誰もまだ神の本質や御子のご品性を計った者はいない。わたしたちは生き生きとした経験によって神の知識を得なければならない。

わたしたちは、救いの時代に生きている。わたしたちは、品性を形成するために、そして、より高い人生のための習慣を獲得するために、神の規律と、支配の下に置かれている。……わたしたちは、重い試練や、反対、死別、苦難にさらされている。しかし、わたしたちは、イエスが、これらのすべてを経験されたことを知っている。これらの経験は、わたしたちにとって価値がある。そのもたらす利益は決して、この短い人生に限られず、永遠の時間に及ぶ。……わたしたちが、その一部を演じなければならない人生のあらゆる局面は、わたしたちの教育の一部であるので注意深く学ぶべきである。わたしたちの品性という建物のために固い木材を持って来なければならない。なぜならば、わたしたちは今の人生と、永遠の命のために働いているのである。そして、この地上の歴史が終わりに近づくにしたがって、わたしたちは、急速に、クリスチャン的成長に進むか、あるいは決定的な退歩へと向かっていく。……

恵みと真理は、キリストにあって共に合い、義と平和は互いに抱擁した。あなたが、クリスチャン品性を完成し、世界にキリストを示すのは、あなたが、神のみ座を見上げ、悔い改め、あなたの神に讃美と感謝をささげる時である。あなたは、キリストの中に住み、キリストは、あなたの中に住まわれる。（手紙 1f，1890 年）

4月22日

子であって、奴隷ではない

「このように、わたしたちは震われない国を受けているのだから、感謝をしようではないか。そして感謝しつつ、恐れかしこみ、神に喜ばれるように、仕えていこう。」（ヘブル 12:28）

キリストに従うと告白する者は多いが、主の言葉を行う者は少ない。彼らはみ言葉を好まない。なぜなら、彼らには快くない奉仕をするように仕向けるからである。彼らは有益な譴責と親密で熱心な訴えを味わわない。彼らは義を愛さない。そして、彼ら自身の移り気な人間的衝動に支配され、圧倒されている。

わたしたちがどのように神に仕えるかによって全く異なるものとなる。勉強しなければならないからという理由で自分の学科をこなす子供は、決して本当の生徒にはならない。律法は守らなければならないので、神の律法を守るのだという人は服従の喜びには入れない。

あらゆる従順の本質と香りは、内にある原則の外面的な現れ、すなわち義への愛、神の律法への愛である。あらゆる義の本質は、正しいがゆえに正しいことをするという救い主への忠誠にある。神の言葉が人間の傾向に真っ向から立ちはだかるがゆえに重荷となるなら、そのとき宗教生活はクリスチャン生活ではなく、むしろ無理な努力と緊張であり、強いられた服従である。あらゆる宗教の純粋さ敬虔さが退けられているのである。

しかし、神の家族への養子はわたしたちを子にするのであって、奴隷にするのではない。キリストの愛が心に入る時、わたしたちはキリストの品性を模倣するようになる。……キリストの生涯を学べば学ぶほど、わたしたちはキリストのようになる。み言葉の真の実行者の心に聖霊は明瞭な理解力を与えられる。他人に祝福を与えることによって、また神が与えた能力を行使することによって自己を十字架につければつけるほど、ますます天の恵みがわたしたちのうちに強められ、増大する。わたしたちは霊性、忍耐、堅忍、柔和、温和において成長する。……列車は機関車に単にくっついているわけではない、レールの上を走るので、機関車と同じところを通るのである。わたしたちはだれに従っているであろう。（手紙135，1897年）

4月23日

クリスチャン品性の麗しさ

「その日、万軍の主はその民の残った者のために、栄えの冠となり、麗しい冠となられる。」（イザヤ 28:5）

多くの者は、外面を飾ることのみ考えているように見える。そして彼らが自分を飾るその服従によって、彼らがキリストにいないことを証拠だてている。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1891 年 5 月 5 日）

わたしたちは、クリスチャン品性の麗しさを開拓し、内側を飾ることを求めなければならない。……キリストの宗教は決して受ける者を退歩させない。それは、高貴にし、高める。ある条件のもとに、わたしたちは王族の一員、天の王子になることが保証されている。この誉は、求めがいのあるものではないだろうか。キリストを信じる信仰と、神の律法の要求に従うことによってわたしたちの命は、神の命と平行して走るようにされる。そして、その不死の命においては、悲しみも、ため息も、痛みも、罪も、死もない。もっと天を思う者となり、もっと天のことを生活と会話に入れる者となろう。

しかし、神の豊かな約束にも関わらず、なんと多く者が、世の事柄にふけっていることであろう。彼らは、何を食べようか、飲もうか、着ようかということにかまけている。神は、この世のことにわたしたちの心を向けさせようとは思っておられない。わたしたちは、利己的満足のために求むべきではなく、心をキリストに向けなければならない。あなたは神から自分を引き離すすべてのものを、自分自身から引き離しているであろうか。もしあなたが神に近くつながっているならば、神について語るであろう。心は、天のもので豊かにされるであろう。……

主は、主により頼む子供たちのために、大いなることをしようと待っておられる。わたしたちは、永遠の世界でキリストと住むことを期待しているだろうか。そうであるならば、ここで主と住まなければならない。そうすれば主は試みと誘惑の時にわたしたちを助け、天の雲に包まれた主の再臨に備えさせてくださる。……キリストの美と恵がわたしたちの品性の中に織り込まれなければならない。わたしたちは、キリストを今わたしたちがしているように生活から離すことができない。そして、天における主との交わりに適する者とされる。主は、全天のすべてであり、地上においてはわたしたちのすべてであらねばならない。（同上）

4月24日

キリストが提供された休み

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」（マタイ 11:28）

キリストによって提供された休みと平安には、一つの条件がある。それは、キリストのくびきを負うことである。この条件を受け入れるすべての者は、キリストのくびきが彼らの負わなければならない重荷を負うのを助けるものであるということを知る。しかし、キリストが側におられて荷の最も重い部分を負ってくださるのでなければ、わたしたちは本当に荷は重いと言わなければならなくなる。主とくびきを共にして義務という車を引くとき、人生の重荷は軽く引けるようになる。神のご要求に人が喜んで服従し、行えるようになることに比例して、心の休みを得る。……

柔和と謙遜は神の律法に従うすべての者、全的にキリストの重荷を負うすべての者の特徴となる。これらの美点は神の奉仕において平安の望ましい結果をもたらす。……

神はわたしたちが、自身の性向に従うままになるならば、わたしたちの意志がわたしたちを導くところに行き、サタンの境遇に落ち込みサタンの性質を持つ者になることを知っておられる。それゆえ、神の律法は、わたしたちを高く高貴で誉ある方の意志に制限される。主は、わたしたちが忍耐深く賢く奉仕の義務を果たすことを望まれる。……父のみ旨に不機嫌に従うならば、反逆の品性を発達させることになる。奉仕は、このような人にとって、単調で機械的な骨折り仕事だとみなされる。それは人を愉快にもせず、神の愛の内にされるものでもない。それは単に機械的な行為となる。……このような奉仕には、平安も魂の静けさもない。

神は世の中に二種類のものを置かれている。一つはよこしまな者で、主は「平安がない」（イザヤ 48:22）と言われている。もう一方については、「あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何物も彼らをつまずかせることはできません」（詩編 119:165）と言われている。……

主は、ご自分のくびきは負いやすく、その重荷は軽いと言っておられる。けれどもそのくびきは安楽と気ままと放銃の生活をわたしたちに与えるものではない。キリストの生涯は、一歩ごとの自己否定と自己犠牲の生涯であった。堅実でキリストのような優しさと愛を持つキリストの真の信徒は、自分の主人のみ足のあとに従うのである。（原稿 20，1897 年）

4月25日

キリストのくびきのもとに

「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」（マタイ 11:29，30）

誘惑者は、しばしばクリスチャンの生活は厳しい、厳格な義務を伴ったもので、いつも注意していなければならないものであるが、なにも几帳面になどしている必要はないのだとささやく。このようにして、神の戒めは、専制的で不正なものであるといって、エデンでエバを欺き、倒したのであった。……サタンの目的は、今も昔も同じである。彼はわたしたちを欺き滅ぼそうと望んでいる。わたしたちは、キリストの生涯を学び、主の御霊を宿すことを求め、主の模範にならわなければならない。そして、わたしたちが、主のようになればなるほど、もっとはっきりとサタンの誘惑を識別できるようになり、もっと、首尾よくサタンの力に抵抗するようになる。……

真の幸福は、放縦や自己を喜ばすことではない。むしろ、主のくびきを負い、主の重荷を担って、キリストのことを学ぶ中に存在する。自分の知恵に頼り自分自身の道を行く者は、一歩ごとに不平をつぶやきながら進む。なぜならば、自我が彼らにしばりつける重荷はあまりにも重く、そのくびきは肩に食い込むからである。彼らがもしキリストに来るならば、そして主の恵みによって彼らをサタンに結び付けるくびきを取りのけるならば、こういったことはすべて変わってしまう。……キリストが彼らに与えられる重荷を負いなさい。そして、主のくびきが自発的な喜びの奉仕のうちに、主と彼らを結びつけるようにしなさい。

イエスは、青年を愛しておられる。そして主のみが与えることのできる平和を彼らに得させようと望んでおられる。……もし、わたしたちが、イエスの弟子になっているのであれば、わたしたちは主について学んでいるであろう。すなわち毎日、品性の好ましくない特性を克服する方法を学び、日々主の模範にならい、聖なる手本に少しずつ近づくことであろう。もし、主が用意しに行かれた家をわたしたちが継ぐのであれば、わたしたちは、この地上において、そこの主人が持つ品性を形成していなければならない。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1883 年 11 月 21 日）

神のご要求は、知恵と慈愛の中になされている。そのご要求に従うならば、心は広くされ、品性は改善され、魂は平和を見出し、世が与えることも取ることもできない休みを得るであろう。心がイエスに完全にささげられる時、主の道は、喜びと平和の道であることを知るであろう。（同上 1884 年 5 月 7 日）

4月26日

謙遜の恵み

「いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖ととなえられる者がこう言われる、「わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕ける者の心をいかす。」（イザヤ 57:15）

謙遜の恵みは、キリストの名を名乗るすべての者によって大切にされるべきである。なぜならば、自己称揚は、神の働きの中にはあり得ないものだからである。万軍の主に、協力しようと思う者は、日々、世的野心を捨てて、自己を十字架につけねばならない。彼らは、彼らの周囲の者たちに対して、忍耐強く、親切で、あわれみとやさしさに満ちていなければならない。……

真の謙遜は、わたしたちが神を見つめ、イエス・キリストと結合しているという証拠である。もし、わたしたちが、柔和で謙遜でないならば、神のご品性の本当の認識を持っているとは言えない。人は、自分が神に忠実に仕えていると考えるかもしれない。つまり、彼らのタラント、教育、雄弁あるいは熱心さは、目をくらまし、空想を楽しませ、表面しか見ることのできない者の称賛を得るかもしれない。しかし、これらの資質も謙遜に神にささげられているものでなければ、……神から役に立たない僕だと見られるのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897年5月11日）

神は、主に従う者たちが、主から豊かな祝福として与えられた真の謙遜をあらわすことを待ち望んでこられた。主に、悔いくずおれ、そして、悔い改めた心を犠牲としてささげる者は、岩の裂け目に隠され、世の罪を取り除く神の小羊を見るであろう。罪を担われ、完全な犠牲となられたイエスが、はっきりと示される時、彼らの唇は、最も高尚な讃美をするであろう。彼らが、キリストのご品性を見れば見るほど、彼らはますます謙遜になり、自己評価はますます低くなるであろう。……自分自身の価値の無さを意識し、そして、神の驚くべき栄光を意識して自己は消失してしまうであろう。……

神と共に歩むことを聖なる幸福なことであると評価する者、主の知識がもたらす力を重んじる者は、彼らが神を見つめている限り、何事も未完成のままに終わらせることはなくなるであろう。彼らは、主の言葉におののく精神を養うであろう。そして、あらゆる場所であらゆる環境のもとで、主の栄光を見ることが許されるように祈るであろう。（同上）

4月27日

天の協力

「だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。」（ペテロ第一 5:6）

全天は、神にすべてをささげた者としてキリストに自己をゆだね、永遠の命を求め、キリストに来る者たちの共労者となる。神は、ご自身のしもべがインマヌエルの血に染まったみ旗の下に立ち、主の力によって、純潔で傷のない、真理の原則を守ることを求めておられる。彼らは、すべての真のクリスチャンが通らなければならい自己否定と、謙遜の道からはずれないようにしなければならない。彼らが、神とこのように協力する時、キリストは彼らの中で「栄光の望み」（コロサイ 1:27）として、形成される。主の柔和と、謙遜を着た者は、主の奉仕をすることに自分の最大の喜びを見出す。この世の野心は、聖なる主人に奉仕する気持ちの前に消え失せるであろう。

「主は高くいらせられるが低い者を顧みられる。しかし高ぶる者を遠くから知られる」「神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をかろしめられません」（詩編 138:6;51:17）。キリストの柔和とへりくだった精神を表す者は神から優しく顧みられる。主が、お気づきにならないものはない。主は彼らの自己否定、世の前にキリストを高めようとする努力をご覧になる。これらの謙遜な働き人はたとえ世からはさげすまれても、神の目には、非常に価値ある者である。賢く、偉大で、慈悲に富む者が、天の宮廷に入る旅券を得る者とは限らない。また忙しく働く人、熱心に休みない活動をしている者とも限らない。そうではなく、心の清い者、唇に偽りのない者、変わらぬキリストの御霊によって行動している心の貧しい者、神のみ心をなすことが最大の望みである平和を作り出す者、彼らが祝福された入場権を得るのである。彼らは神の宝石であり、ヨハネが記した人々の中に数えられる者となるであろう。「わたしはまた、大群衆の声……のようなものを聞いた。それはこう言った、『ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる』」（黙示録 19:6）。彼らは小羊の血で、彼らの衣を洗って白くした人々である。「それだから彼らは、神のみ座の前におり、昼も夜もその聖所で仕えているのである。み座にいます方は彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう」（黙示録 7:15）。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1897 年 5 月 11 日）

4月28日

謙遜な者への光

「へりくだる者を公義に導き、へりくだる者にその道を教えられる。」（詩編25:6）

あなたが自分の魂と聖書の言葉の間においた科学的知識を学んだり、依存したりすることに誇りを持つならば、それは柔和で高ぶらないイエスのうるわしく謙遜な宗教に対してあなたの心の扉を実際に閉めることになる。

世が誇りとしている知識よりも、もっと貴重な天の教えを受けるのは、心の謙遜である。……彼「悔い改めた罪人」は……霊的になり、霊的な事柄を識別するようになる。神の知恵は、彼の心を開き、彼は、神の律法からすばらしい事柄を見るであろう。罪を犯した者のために許しを提供するこの救いは、全知であられる方の、綿密な検査に耐える義を彼に提供し、神と人間の強力な敵を打ち破る勝利を与え、それを受けた者に永遠の生命と喜びを与える。……

救いの完全性は、偉大なものである。だれも、世の知識を持ってしては、それを測ることも、理解することもできない。最も深い洞察力を持ち、集中した研究により熟慮されるべきである。しかし創造者のきわめることのできない威厳に我を忘れるであろう。しかし、主の測ることのできない富を黙想することにより、神と結合した魂は、拡大され、もっと深く、もっと高く救いの計画の栄光を理解することができるようになる。……彼の能力は、神のご要求を理解する力が与えられ、それを果たすのに、機能と知恵が増し加えられる。神にすべてをささげた心は、聖霊の導きの下に、広く調和して発達する。弱くぐらつくような性質は、神の力によって力のあるしっかりしたものに変えられる。絶えざる献身と、敬虔は、イエスとその弟子との間に、深い関係をうちたて、クリスチャンは心と品性において、主のようになるであろう。神のみ子との交わりの後、キリストの謙遜な信徒は、健全な原則、明白な識別、そして確かな判断力を持った人であることが見いだされる。彼は、光と理解力の源であられる神とつながりを持っているのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1888年4月17日）

4月29日

イエスの血のいさおし

「わが魂は主によって誇る。苦しむ者はこれを聞いて喜ぶであろう。」（詩編34:2）

彼、「真のクリスチャン」は、無限の犠牲が彼のためになされたということ、またイエスの血、とりなし、そして義のいさおしによって、命は評価できないほど価値あるものであることを知る。しかし、神の子供たちの高められた特権を理解する時、彼の魂は謙遜で満たされる。カルバリーの十字架のかげを歩む者の唇には、いかなる聖なることの誇りもない。彼らは、神のみ子の心を裂いた苦しみの原因は、彼らの罪であったことを思い知る。……イエスに最も近く生きる者は最も深く、自分自身の無価値を痛切に感じ、彼らの唯一の望みは、十字架にかけられ、よみがえられた救い主のいさおしにあることを知る。モーセのように、彼らは聖潔の恐るべき大能者をながめてきた。そして彼らはイエスの純潔で高められた麗しさに比べて、自分自身の不充分さを知るのである。

謙遜は、いつあらわされるものであろうか。毎日、毎時間、わたしたちはキリストに全的により頼む必要がないであろうか。……主はご自身に、わたしたちの性質を取られ、わたしたちのために罪となられた。それは、わたしたちが「今までに犯された罪」（ローマ3:25）の許しを得るためであった。そして、主の聖なる力と恵みによって、律法が要求する義を全うするためであった。神の律法を守っても守らなくても違いはないという人は、キリストを知っていないのである。主は、「わたしがわたしの父の戒めを守ったので、その愛の内におる」（ヨハネ15:10）と言われた。キリストに従う者は、キリストがなされたようにするのである。……

サタンは、罪の道にあなたを入れるように誘惑している。また、神の律法の違反によって、すばらしい何か良いものを、もたらそうと約束している。しかし、彼は偽り者である。彼は、あなたの滅びのためにだけ働く。……キリストは、その悪の支配を破るために来られた。……人間は、律法を犯すことによって弱くされたので、サタンへの奉仕から、唯一の真の神への奉仕へ向きを変えるだけの十分な道徳的力を持たないのである。しかし、命の君であるイエスは、「天にも地にもあらゆる権」を受けられたから、救いを求めるすべての魂にあらゆる義の敵に勝利する力を与えられるのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1888年3月6日）

4月30日

神に栄光あれ

「主はこう言われる、「知恵ある人はその知恵を誇ってはならない。力ある人はその力を誇ってはならない。富める者はその富を誇ってはならない。誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さとくあって、わたしを知っていること、わたしが主であって、地に、いつくしみと公平と正義を行っている者であることを知ることがそれである。わたしはこれらの事を喜ぶと、主は言われる。」（エレミヤ 9:23，24）

これは最も貴重な譴責であり、激励であり、神に仕えようとするすべての魂に対して、最も重要な教訓である。ここに主がお喜びになる事柄がわかりやすい言葉で表現されている。神を認め、知るすべての人は、主を慈悲とさばきと、義をなされる方であると知るであろう。もし彼らが神と謙遜に歩むなら、彼らは主の道にとどまることができ、あらゆる親切、同情、あわれみ、優しさ、愛の内に、主のみ心を行うことができるであろう。なぜならば、神は「これらのことを喜ぶ」と言われたからである。わたしたちは、唇から出た言葉の結果に対して、いかに注意深くあるべきだろうか。わたしたちは、主の血で買われたのであるから、不親切な行為によって、神を辱めてはならない。もしわたしたちが、神のご品性を表すならば、わたしたちはクリスチャンの紳士、淑女となるであろう。……

一つの民としてのわたしたちの繁栄は、わたしたちが神へ完全により頼むことにかかっている。すなわちわたしたちの救い主のうちに、またこのお方を通して自分たちの能力、恵み、そして品性の完全さを求めるのである。このお方はわたしたちのためにご自身の栄光に満ちた功績をもって贖い代を支払われた。（手紙150，1897年）

個人的救い主として、イエス・キリストを知っている者は、人間の学校で、高い教育と訓練を受け、有限な者の知恵によって指導を受けるよりも、より高い指導を受ける特権を持つのである。彼らは、世がこれまでに知った最大の教師の個人教授のもとに来ることができる。そして、主がダニエルに与えられたのと同じ知識にあずかることができる。心の謙遜な者、高い知識の必要を感じる者、そして自分自身の限られた判断力に依存しないで、熱心に神の意志を知ろうと求める者はすべての知識の源であられる方から、優雅さと、用心深さと、思慮、判断力を引き出して、それを得ることができる。彼らは「み言葉が開けると光を放って無学な者に知恵を与えます」という神のみ言葉の確かな成就を知るであろう（詩篇119:130）。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1893年9月19日）

研究 12

神の憐れみの最後の招き

「品性」

神の栄光が地を照らさなければなりません。キリストがその光であられました。シメオンやモーセは、その栄光を見ました。そしてわたしたちすべての者のために言葉は肉体となり、わたしたちのうちに宿りました。わたしたちは人として来られたキリストを見ることにより、神の栄光を見ることができます。

キリストは、神の律法が要求する完全な義、完全な品性を発達させられました。そして、それは、その品性をわたしたちに無償の賜物として与えるためであったのです。これを受け入れるすべての人が全地を照らす天使の働きに参加します。

品性 – 世が信じるように

「わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって」(ヨハネ 1:14)。

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります。父よ、あなたがわたしに賜わった人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。天地が造られる前からわたしを愛して下さって、わたしに賜わった栄光を、彼ら

に見させて下さい」（ヨハネ 17:20-24）。

「イエスはこれらの者について、『わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなる〔この一致は、品性の完全をもたらす〕ためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります』と言われる」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 11 月 1 日）。

「わたしたちはキリストと品性において一つにならなければならない。このお方は『わたしは、あなたからいただいた栄光（品性）を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります』と言われた。これらの言葉に注目しなさい」（ｴﾚﾝ・G・ﾎﾜｲﾄ 1888 年原稿 1429）。

「キリストは人性をおとりになって完全な品性を形成された。そしてこの品性をわたしたちに分け与えてくださるのである」（キリストの実物教訓 291）

この品性を実際にいただいた結果が、初期の弟子たちのペンテコステの経験でした。

彼らの相違点は、キリストのご品性への一致へと変えられたのです。これこそ、キリストの祈られた一致でした。

「これら最初の弟子たちには著しい相違点があった。…この人たちはゆだねられている仕事を立派に進展させるためには、素質も生活習慣も違うので、感覚、思想、行動において一致する必要があった。この一致こそ、キリストが確かなものにしたいと目指されたものであった」（患難から栄光へ上巻 12）。

「もし考えが間違っていれば、気持ちも間違っている。そして考えと気持ちが結合して道徳的品性となるのである」（教会への証 5 巻 310）。

「彼らはみな、…心を合わせて、ひたすら祈をしていた」（使徒行伝 1:14）。

「五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に（一致して）集まっていると」（使徒行伝 2:1）。

「ただ一つの関心が支配し、一つの対象を求める熱意が他のすべてをのみこ

んだ。信徒の望みはキリストのご品性に似たものとなることであり、神の国を発展させるために働くことであった」（患難から栄光へ上巻 44）。

現代においても、同じ一致が実現されます。それは、キリストの義によるのであり、キリストの祈りの結果です。

「現代のメッセージ―信仰による義認―は神からのメッセージである。それは神聖な信任を帯びている。なぜなら、その実は聖潔に至るからである」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1895 年 9 月 3 日）

「キリストはご自分の民の一致のために祈られる。……ここでなんという一致が提示されていることであろう！この結合のうちに、神聖な信任状が世に提示されている。それは彼らがイエスを信じることができるためである。『わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました〔それはキリストがもっておられるご品性、このお方の義である〕。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。……』

『わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります』。…『また、…世が知るためであります』―そしてここで、かつてご自分の民のためになされた中で最大の主張をなさる。―『あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを』。わたしたちはこの意味を把握できるだろうか？……

世が改心した神の民と接触するとき、彼らが品性において変えられ、こうして神に栄光を帰していることに気づく。彼らについてイエスは次のように言われる、『父よ、あなたがわたしに賜わった人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。天地が造られる前からわたしを愛して下さって、わたしに賜わった栄光を、彼らに見させて下さい〔彼らは彼の神性、世のはじめから彼が御父と一つであることを見なければなりません〕』。キリストはご自分の弟子たちに、『わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。……またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである』と言われた」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 359）。

わたしたちはこの意味を把握できるでしょうか?

そればかりではありません。

はじめに「わたしが彼らのうちに住むため」に、「わたしのために聖所を造らせなさい」と命じられたとき、贖罪所の上にシェキーナーとして表れていましたが、この神の栄光は、神が世の終わりまで共におられ、最後の大争闘においてご自分の民を守られることを象徴しているのです。

シェキーナー – 栄光

「あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ 28:20)。

「その時、主はシオンの山のすべての場所と、そのもろもろの集会との上に、昼は雲をつくり、夜は煙と燃える火の輝きとをつくられる。これはすべての栄光の上にある天蓋であり、あずまやであって」(イザヤ 4:5)。

「イザヤの最も美しく、慰めに満ちた預言の言葉のなかで、この雲と火の柱は、悪の勢力との最後の大争闘において、神が、神の民を守られることの象徴として用いられている。…〔イザヤ 4:5, 6 引用〕」(人類のあけぼの上巻 325)。

（46 ページの続き）

のか。しかし、それでは、こうならねばならないと書いてある聖書の言葉は、どうして成就されようか」（マタイ 26:52-54）。「父がわたしに下さった杯は、飲むべきではないか」（ヨハネ 18:11）。

キリストは暴徒たちと一緒にいた祭司長や、宮司たちに言われました、「あなたがたは強盗にむかうように、剣や棒を持ってわたしを捕えにきたのか。わたしは毎日あなたがたと一緒に宮にいて教えていたのに、わたしをつかまえはしなかった。しかし聖書の言葉は成就されねばならない」（マルコ 14:48, 49）。

弟子たちは救い主がご自分の敵からご自身を救い出すために何の努力もはらわれないのを見てつまずきました。彼らはこのお方が何もなさらないので、非難しました。彼らは暴徒たちに降伏なさることが理解できませんでした。そして恐怖におそわれ、このお方を見捨てて逃げました。

キリストはこのように見捨てることを予告しておられました。「見よ、あなたがたは散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとりだけ残す時が来るであろう。いや、すでにきている。しかし、わたしはひとりでいるのではない。父がわたしと一緒におられるのである」（ヨハネ 16:32）。

フライパンで作るカボチャグラタン

■材料

かぼちゃ	1/4	スライス
ココナツミルク	1 缶	
たまねぎ	2 個	スライス
塩	小さじ 1	
小麦粉	大さじ 2	
昆布粉末だし	小さじ 1/2	

■作り方

1. かぼちゃとたまねぎをスライスします。
2. フライパンにスライスしたかぼちゃを並べ、その上に塩と小麦粉をぱらぱらまき、スライスしたたまねぎを重ねます。同じようにかぼちゃ、塩、小麦粉、たまねぎの順で、3 段くらい重ねます。
3. 重ね終わったら、ココナツミルクをかけて、ふたを閉めて強火にかける。沸騰したら、弱火にして 7-8 分、火が通るまで煮ます。
4. 煮えたら、グラタン皿に入れかえて、上にココナツフレークをかけます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

イエスの物語

第37話

裏切りと逮捕（II）

殺人者たちは、たったいま自分たちの目の前で栄光を受けられたお方にユダがさわったのを見て、大胆になりました。そこで彼らは救い主をとらえ、そしていつもよいことをするために用いられてきた手をしばりました。

弟子たちは、キリストがつかまるがままになさるとは考えていませんでした。彼らは暴徒を打ちたおして死人のようにすることのできた力が、キリストとまた共にいる者とが逃げるまで無力にしておくことができることを知っていました。

彼らは自分たちの愛するお方の両手をしばるひもが差し出されるのを見て失望し、憤慨（ふんがい）しました。ペテロは、怒りのあまりすばやく剣を抜き、自分の主を守ろうとしました。しかし、大祭司のしもべの耳を切り落としただけでした。

イエスさまはそれをごらんになったとき、ご自分の手がローマの兵卒にしっかりとつかまれていたにもかかわらず、それをふりほどいて言われました、「それだけでやめなさい」（ルカ 22:51）。このお方は傷ついた耳にふれられました。すると、たちまち治りました。

それから、ペテロに向かって言われました、「あなたの剣をもとの所におさめなさい。剣をとる者はみな、剣で滅びる。それとも、わたしが父に願って、天の使たちを十二軍団以上も、今つかわしていただくことができないと、あなたは思う

（43 ページに続く）